■育てる「人・言葉」

「くらぶち英語村とその挑戦」

評議員　小林　良江

群馬県高崎市倉渕町をご存知でしょうか？　日本の近代化の礎を築いた幕臣小栗上野介の終焉の地と聞くと、歴史好きの方はご存知かもしれませんが、多くの方が初めて聞く地名だと思います。この倉渕町を、そして２０１８年４月から育てる会が運営している「くらぶち英語村」の一端をここでご紹介したいと思います。

高崎市倉渕町は総面積（１２７・26平方キロメートル）の85・５％が山林という中山間地です。江戸時代にはこの地域を通る信州街道が信州と上州を結ぶ物資輸送の重要ルートとして存在していましたが、現在は上信越自動車道からも大きく外れてしまいました。しかも町内には鉄道駅がなく、最寄りの駅は約20キロメートルも離れた北陸新幹線安中榛名駅です。温泉もあり、自然豊かな風光明媚な町ですが、高齢化率が約46％となり、大きな課題も抱えています。

このような倉渕町に都会の小中学生対象の「英語村」ができると聞いて驚いていたころ、英語村のカリキュラム検討委員会への参加依頼が高崎市からありました。英語の専門家ではない私ですが、小学生の時から正課として英語の授業を受けていたことや、英語に苦しみながら米国の大学院で学んだ経験などが役に立つならばという思いで、２０１７年６月に開催された第１回目のカリキュラム検討委員会に参加しました。

集まったメンバーは小、中、高校の英語を専門とする先生方、子ども英語塾の先生、ＡＬＴの英語母語の方、そして育てる会の方など多士済々です。そして、この委員会の最初の仕事が委員長の選考であり、委員長の考え方でその後の英語村の形が決まりそうな予感もしていました。驚いたことに、全員の総意で委員長を選ばず、市役所の方に司会のみをお任せすることが決定したのです。より良い英語村を作り上げるためには、多くの委員の考え方が反映されるフラットな委員会が必要と考え、「長」を選考しませんでした。この瞬間に、その後のくらぶち英語村の骨子が決定したような気がします。

「英語村を作るのだから子どもたちの英語力向上が目で見えなくては意味がない、保護者は納得しない」という考えがあっても当然です。一方で、「子どもたちに英語資格試験の勉強や受験を強制したくない」、「英語嫌いを育ててるような環境は望ましくない」という意見もあ

り、会議が先に進みません。そのような時に、「育てる会は日々の生活や自然体験を大切にし、裸足で歩くことを大事にしている」と発言してくださった方が青木厚志代表です。委員全員が「納得！」と頷いていたことを覚えています。この瞬間に、生活力を身に付けて、実践的な英語力も身に付けるというカリキュラムが明確化しました。同時に、くらぶち英語村の運営を「育てる会」に任せようとした高崎市、ならびに富岡賢治高崎市長の意図がよく理解できました。

英語村が開設して2年が経とうとしています。倉渕町の変化もお知らせしたいと思います。開設した２０１８年4月にくらぶち英語村を訪れた時、「くらぶち英語村」という多くの幟を目にしました。なんと地元の方が作って立ててくださったとのこと。歓迎の気持ちが伝わってきました。

毎年11月にはくらぶち英語村主催の収穫祭が開催されます。保護者の方々も参加なさっていますが、地元の方々の参加が多いことに驚かされます。小中学校の同級生はもちろん、地元の高齢者の方々が大勢いらして、英語のゲームにも笑顔で参加してくださいます。地元の皆さんに支えられている英語村であることを実感します。

1月には、「どんど焼き」が町の人々とともに、英語村で行われます。この「どんど焼き」、一旦廃れてしまったのですが、くらぶち英語村の開設をきっかけに昨年から再開され、今年も

1月14日に行われました。地元の方々と子どもたちが一緒になって竹と杉で組み立てる道祖神小屋や繭玉を作り、どんど焼きをします。この復活には地元の方々が一番喜んでくださり、地元新聞にも大きく取り上げられました。

くらぶち英語村という取り組みは、現在の課題でもある多文化共生力の向上にもつながると考えています。日本中から集まった子どもたち、倉渕町の友だちや高齢者の方々、様々な国から来日した指導員の皆さんと交わることで、多様な背景を持った人々と共生していくことを厭わない心が身に付きます。新たな時代の学びの場としてのくらぶち英語村に大いに期待しています。皆さんも倉渕町に是非いらしてください！

こばやし・よしえ……東京生まれ。学習院大学法学部政治学科卒業。ハワイ大学マノア校政治学研究科博士号Ph.D.（政治学）取得。平成28年から群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部長、平成29年から群馬県立女子大学学長。専門は国際政治学、ジェンダー論。著書に*A Path Toward Gender Equality: State Feminism in Japan.*（Routlege）などがある。